

< 今日の説教のポイント ルカによる福音書 11 章 14~26 節 >

1 悪霊祓いをすぐに信じないことは悪くない。しかしイエスの場合は？

このテーマは「悪霊祓いを行うイエスは何者か」でしょう。悪霊祓いをする者は昔から今に至るまで大勢います。そのような人物に出会った時にはすぐに信じない方が正しいでしょう。しかし、確認して本物であると納得できた時には信じるのが正しいでしょう。ここでは主イエスについてそれが問われ、それに対する主イエスの答が示されています。

2 主イエスが示された3つの内容。

ここで主イエスは 3 種類の答を示されています。①すでに悪霊が支配しているのに、私が悪霊の頭なら、どうしてそれを乱す必要があるのか(14-15, 17-18)。②だのに、自分たちの仲間が行う悪霊祓いは認めるのか。その違いはどこにあるのか(19)。③これ以上、何を示したら信じるというのか。私をどこまで疑うのか(16)。どれもなかなか面白い、私たち自身も色々考えさせられる答えではないでしょうか。

3 神様が本当にイエスを送られたなら？ これまでの見方の逆転が必要!

聖書から教えられる神様は全能であり、世界の造り主であり、赦しと愛に満ちた神様です。もしそのような神様が本当に存在するなら、人間が自分たちの罪で苦しんでいる世界に救い主を送り給うことはあり得ると考えるべきでしょう（あり得ないと考えるなら、それは傲慢です）。主イエスは、「わたしが神の指で悪霊を追い出しているのであれば、神の国はあなたたちのところに来ているのだ」(20)と言われました。また、「神の国はいつ来るのか」と問うた人々に対して、「神の国は、見える形では来ない。『ここにある』『あそこにある』と言えるものでもない。実に、神の国はあなたがたの間にあるのだ。」(17:20-21)と答えられました。「**来ている**」は過去形、「**ある**」は現在形で、「**国：バシリア**」の原意は「支配、力が及んでいる状態」ですから、イエス様は、「父なる神様が私を遣わされて来たのだから、私と共に生きる人は神様の支配の中を歩むことができるのだ」と呼び掛けられたのです。最後に主イエスは、このことを知った者、受け入れた者はこの私を遣わされた神様を信じて生きる者にならないということがあり得ようか、ないはずだと語っておられるのです(21-23)。以上のことを理解すると、この後にルカが置いたイエス様が語られた短い例え(24-26)の意味もよく分かります。この方主イエスを頭と信じて生きる時に、もう何も恐れることない人生が待っているのです。